

## 低貸玉派は 想定限度額 1万円以下 全面禁煙には大きな壁が

日遊協の遊技機開発委員会は10月14日、さる7月に全国の日遊協会員ホールの協力で行った「2010年パチンコ・パチスロに関するファンアンケート調査（ホール来店客調査）」の報告書を公表した。調査の目的は、最近のファンのプレー動向の変化と、ニーズ、満足度など意識動向の変化を把握・分析し、今後のホール経営や新要件機の開発に役立てるため。今回は22都道府県134ホール（32社）で2494人の有効回答を得た。

調査結果では、投資金額では依然、想定した上限額と実際の投資額とで差があった。1回あたりのプレー時間はパチンコ・パチスロ平均で4.1時間と長時間遊技が常態化していた。低貸玉・メダルが一定の評価を得ていた。公共施設での受動喫煙防止の動きが高まる中で遊技客の喫煙率は65%と高く、新規顧客の掘り起こしにあたって禁煙・分煙の取り組みが大きな課題となっている。総じて、少子高齢化の中での若年層のパチンコ離れ、低貸玉・メダル営業の浸透・定着によるホールの収益構造の激変、顧客ニーズの多様化などホール経営は大きな転換期にあり、新たな顧客創出と産業の新展開のためにはこれまで以上にお客様の声に真剣に耳を傾けていく必要があるとしている。



### アンケート調査要領

- 時期 2010年7月
- 対象 日遊協加盟ホールの来店客
- 協力ホール 32社134ホール（22都道府県）
- 有効回答 2494人
- 調査方法 ホール従業員による来店客からの聞き取り、または休憩スペースなどで来店客自身による記入

回答者の男女比は、男性66%、女性34%とほぼ2対1で、過去の調査と似た構成となった。回答者の平均年齢は41.6歳（前回43.3歳）。このうちパチンコ派は46.4歳で若・中・高の各年代にまんべんなく分布し、パチスロ派は37歳で10代を含む30代までの人が7割近くを占めた。職業別では、勤め人が42%ともっとも多く、以下パート・フリーター、自営・自由業、専業主婦、学生となっている。ただしパチスロに限れば学生、パート・フリーターが多く、専業主婦は少ない。

（09年はインターネット調査も同時に行なったが、今回は行なわなかった）

パチンコ派52%、パチスロ派20%、両方派(同程度する)26%で、基本構成は過去の調査と変わらないが、多少パチスロ派が減っている。パチスロ派は相対的に若い人(10、20代)に多い。また、若い人では両方する人も多い。パチスロ派は通常価格の台でプレーする人に多い。また、レジャー派よりも実益派に多く、収支もプラスという人が相対的に多い。

**表1** プレーするのはパチンコかパチスロか

若い人の多くは両方ともプレー

**■回答者の分類 (パチンコをするかパチスロをするか)**

	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	
【凡例】	パチンコ派		両方派			パチスロ派		無回答				
	パチンコだけ	主にパチンコ	両方同程度	主にパチスロ	パチスロだけ	無回答						
07年10月	37.7	12.8	20.4	18.7	8.8						1.7	
08年4月	32.5	16.5	26.8	14.9	7.4						1.9	
09年2月	39.8	15.0	23.7	12.8	7.2						1.5	
今回(10年7月)	38.6	13.6	26.1	12.7	7.2						1.8	



日遊協では、ファンの楽しめる遊技機を追求している【試作機の試打会】

目的としては、実益重視派24%、レジャー重視派57%、中間派(実益を兼ねるがあくまでレジャー)16%という構成。遊びとはいえ賭けごとという気持ちがファンの基軸にあるのも確かだが、軸足は実益よりレジャーのほうにあるとする人がはるかに多かった。実益重視派は相対的に若い人、パチンコよりパチスロ派、頻度の高い人、投入金額の多い人に多い。負けても楽しめたと満足するところが「よくある」は15%程度だが、

**表2** ホールに行く目的、満足感

実益よりレジャー、負けても楽しむ

**■ホールに行く目的とその推移**

	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	
【凡例】	レジャー派		中間派			実益派		その他				
	時間が空いた時の暇つぶし	ストレス解消・手軽なレジャー	実益兼ねるがあくまでレジャー	レジャーよりこづかい稼ぎ	レジャーでなく生活費稼ぎ	その他						
07年10月	26.4	29.4	17.9	18.8	5.2						2.3	
08年4月	26.5	30.3	18.3	17.1	4.4						3.4	
09年2月	25.9	30.4	19.0	17.4	4.3						3.0	
今回(10年7月)	27.6	29.7	16.0	18.3	5.5						2.9	

「時々ある」人が52%あり、合わせて67%の人が負けても満足感を得ることがあるとしている。実益を重視している人でも「ある」という人は6割近く存在していた。一方で、負けたら満足することは「まったくない」とする人は31%いた。

## 表3 プレー時間と来店曜日

### 「短時間で終わらぬ」夜間の来店頻度減る

1回のプレー時間は全体平均4.1時間（パチンコ派4.3時間、パチスロ派4.0時間）で、多少長時間化の傾向がある。「4時間位」24%、「5時間位」19%、「4時間以上」21%で、総じて4時間以上の人が64%を占めている。ただし、時計で計るのではなく自分の感覚で答えた人が多く、実際はもっと短そうという見方もある。

来店する曜日については、6割近く（58%）が「曜日を問わず来店する」人だった。夜間の来店頻度は、減った人が目立った。減った理由は「短時間で完結する台がない」が最も多かった。平日昼間は就業者が来られないのも確かなので、平日のアフター5の来店促進策があれば新しいファン開拓につながりそうだ。

## 来店1回当たりのプレー時間の分布とその推移（全体計）



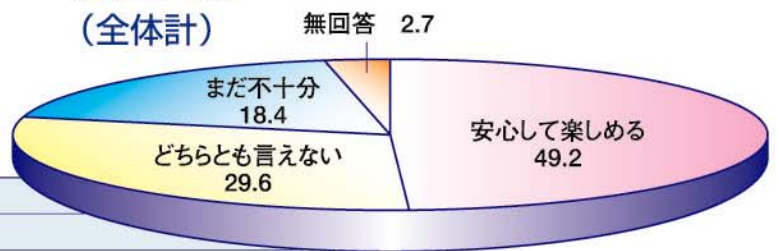
度は、減った人が目立った。減った理由は「短時間で完結する台がない」が最も多かった。平日昼間は就業者が来られないのも確かなので、平日のアフター5の来店促進策があれば新しいファン開拓につながりそうだ。

回答者全体で、「安心して楽しめる」と見る人と「まだ不十分」「どちらともいえない」と見る人はほぼ半々となっている。不十分と見る人の理由は「お金がかかりすぎる」「マナーの悪い客がいる」の2点が断然多かった。回答結果から見て、ホールの設備環境はファンの要求水準にほぼ達していると考えられるが、「マナーの悪い客」に関しては、店側のお客様に接する努力不足が指摘されるなど、もう一歩の改善が必要。

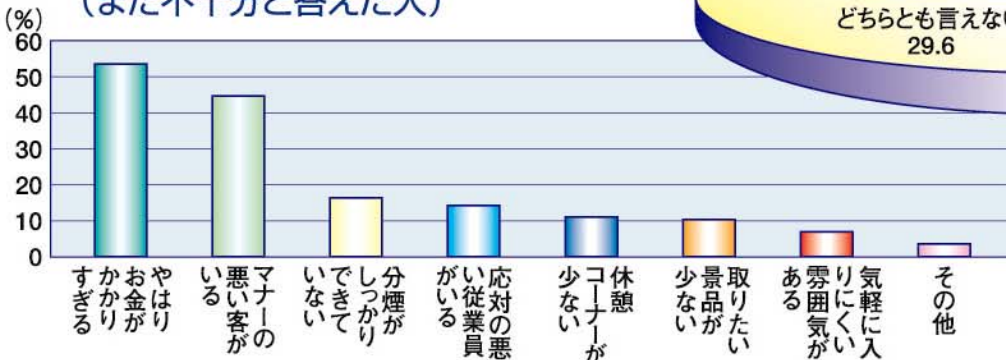
## 表4、5 健全化活動に対する評価

### 「マナーの悪い客」の対応に課題

## 今のホールは誰でも安心して楽しめるか（全体計）



## 安心して楽しめない理由（まだ不十分と答えた人）



## 表6、7 投入想定額と実際の投入額

### 想定限度額は 2年前から増加気味

初当たりまで投入する想定限度額は平均1万円前後で、ここ数年変わらない。

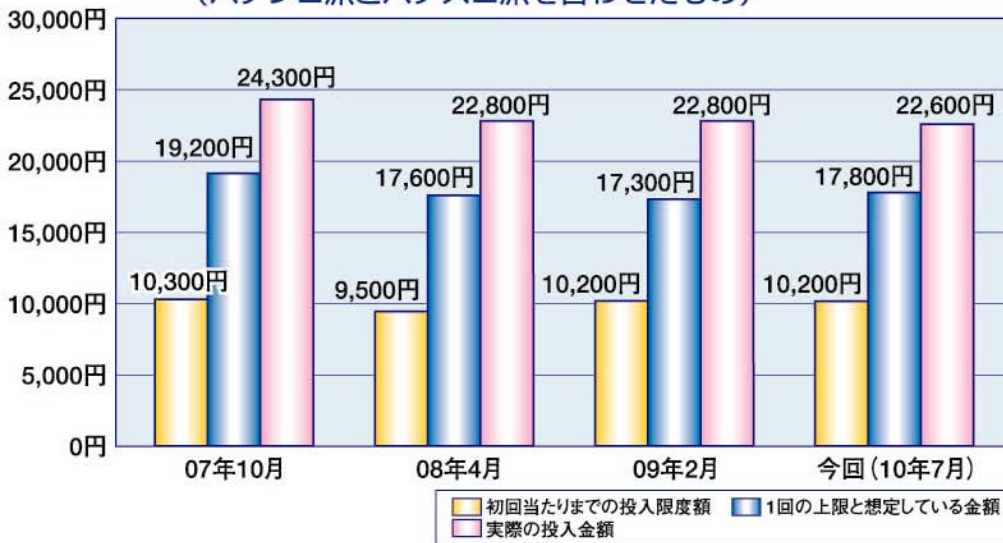
また、1回の想定限度額は平均1万7800円で、3年前（1万9200円）より少ないが、2年前からやや増加気味。このうちパチンコ派は1万7000円、パチスロ派はそれより少し多い1万9100円だった。パチンコ派は「2万円まで」（21%）、パチスロ派は「3万円まで」（24%）がそれぞれ最多を占めた。しかし、上限を決

めない人がパチンコ派23%、パチスロ派29%と相当多かった。

### 2〜3割増える 実際の投入額

これに対して実際の投入額は平均2万2600円で、3年前より7%程度の減少だが2年前以降はほぼ横ばいとなっている。実際投入額は上限想定額より2〜3割多かつたが、これは上限を決めない人が相当数いたことも原因で、ファンの多くはほぼ想定額程度で遊んでいると見られる。パチンコ派の実際投入額は平均2万2400円でパチスロ派の2万1900円よりやや高かった。パチンコ派には低貸玉派も多く、分布は多様で「1万円位」「2万円位」「3万円位」がそれぞれ23%程度いる。一方、パチスロ派の実際投入額は「2

### ■1回の上限想定金額と実際の投入額（平均金額）の推移 （パチンコ派とパチスロ派を合わせたもの）



### ■上限想定金額と実際の投入金額の比較（平均金額） （パチンコ派・パチスロ派&低貸玉派・通常派）



万円の位」が37%、「3万円位」が24%、「1万円位」が21%で、この範囲に8割強が集中している。

### 低貸玉派は 通常派の半額

低貸玉派と通常価格派の別で見ると、1回の上限想定額は低貸玉派が9900円で通常価格派（2

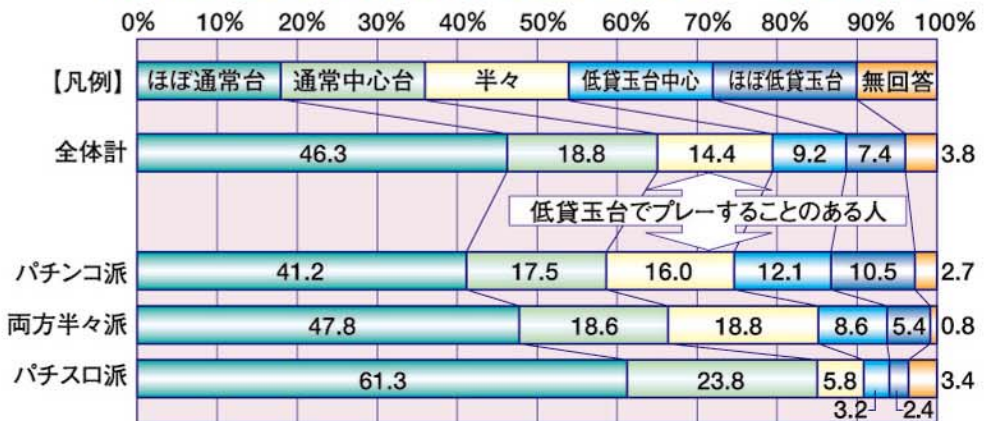
万8000円）の半額程度となっている。これに対する実際投入額は低貸玉派が平均1万1300円。「1万円位」が33%と最多だが「3000円位」「5000円位」が多く、1万円までに76%が集中している。通常価格派は平均2万6300円。

低貸玉台中心にプレーする人はパチンコ派23%、パチスロ派5.6%と多数派ではないが、通常台と使い分けている人は多い。低貸玉でプレーする人は男性より女性にやや多く、年代では男性は高年齢層、女性は若年齢層に多い。低貸玉台中心ではない人も含めて低貸玉台でプレーすることがある人は、パチンコ派は過半数の56%、パチスロ派は35%おり、低貸玉はファンに馴染んできたといえる。

**表8 低貸玉・メダル台のプレー実態**

## 男性は高年齢層、女性 は若年齢層が

**■通常台と低価格の貸玉台のどちらでプレーしているか**



パチスロを楽しむのは、相変わらず若い層だ

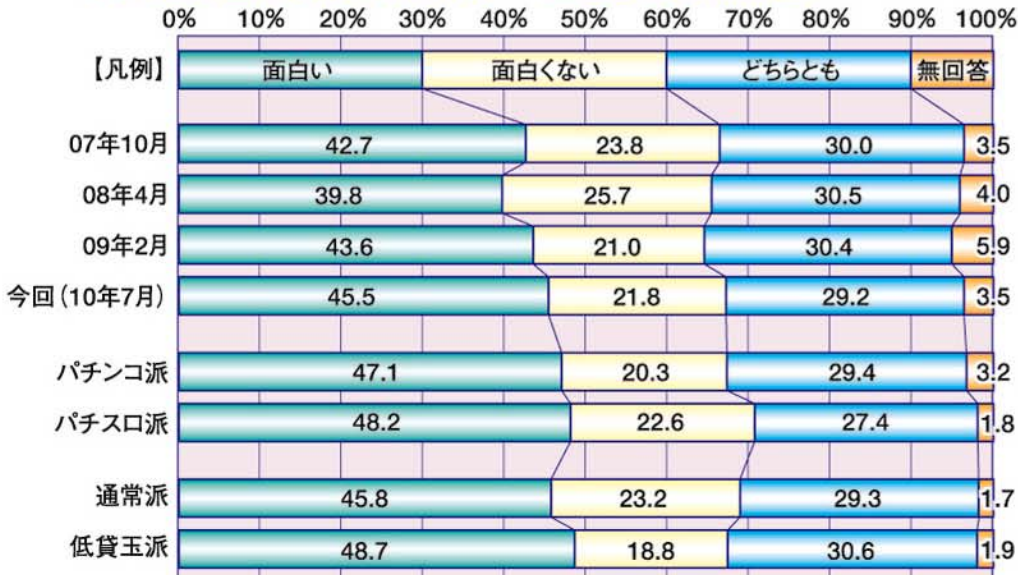
**表9 現在の台に対する印象**

## 「金がかかりすぎる」 が増える

現在の台に対する印象をいろいろな角度から聞いた。「ゲームとしての面白さ」では、「面白くない」が22%、「どちらともいえない」が29%いたが、半数近くの46%が「勝ち負けを抜きにしてゲームとして面白い」と答えた。

「遊び方のわかりやすさ」では、「わかりにくくはない」という人は3分の1程度。「わかりにくいことがある」が

**■現在の台に対する印象(ゲームとしての面白さ)**



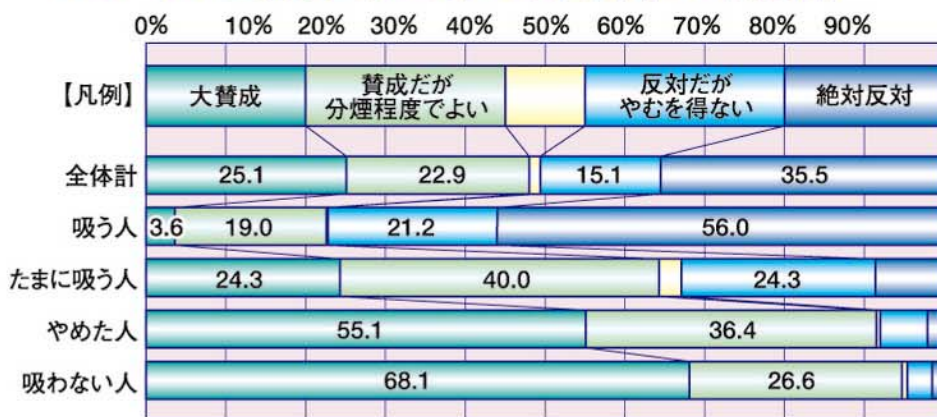
半数近くいた。初心者にはさらにわかりにくいと思われる。「投資金額」では「適当」と見ている人は40%、「かかり過ぎ」が54%だった。経年では「かかり過ぎ」と見られる人が増える傾向にある。「勝ち額の大ささ」では、「少ない」が過半数の57%、「どちらともいえない」が23%で、「満足」は16%だった。経年では徐々に「少ない」が減り、「満足」が増える傾向にある。

ファンの喫煙率は65%（男性69%、女性56%）と、最近のJT調査による一般成人の喫煙率（24%、男性は37%）に比べて非常に高かった。ホールの全面禁煙化には賛否がほぼ半々に分かれ、賛成派には「分煙程度でもよい」、反対派には「やむを得ない」という意見も多い。喫煙者が過半数を占める現状では、全面禁煙化は次期尚早で、分煙の徹底を図ればどちらのファンの不満も抑制できると考えられる。

**表 10 全面禁煙化への賛否**

## 非常に高い喫煙率、分煙の道か

**■ホールの全面禁煙化に対する賛否（喫煙の有無別）**



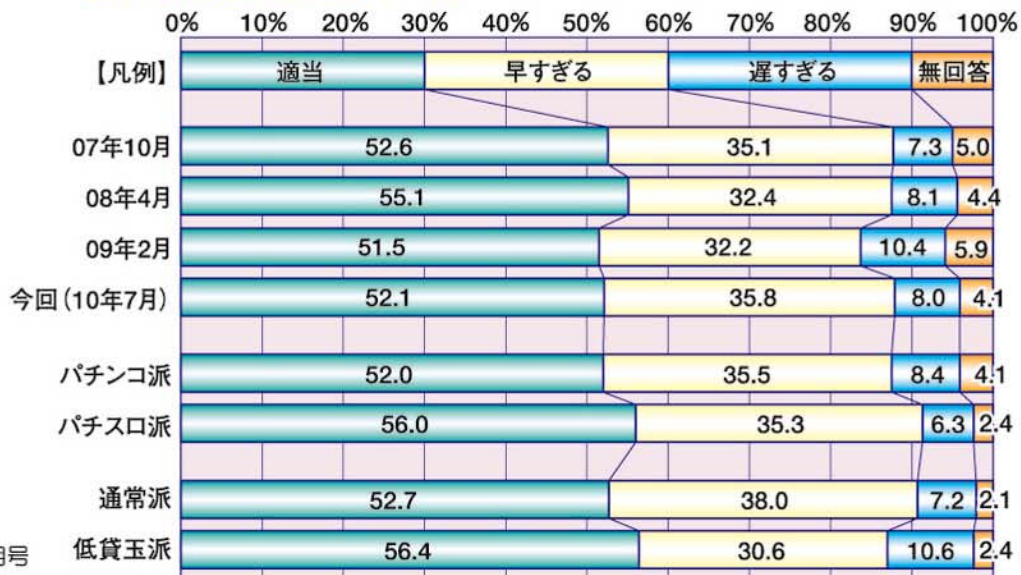
全体として「早すぎる」と見ている人は36%と少なくないが、「適当」と見る人も52%おり、過去の調査結果とほぼ同じになっている。「早すぎる」は中高年層、キャリア層に多い。「適当」と見る人はパチンコ派よりもパチスロ派に、通常派より低貸玉派に多少多い。

新台の来店効果については、「行きたくなる」34%、「とくに行き

**表 11 新台が登場するペース**

## 中高年層は「早すぎる」と感じる

**■新台が登場するペース**



「どちらともいえない」31%とほぼ3分され、一定程度の効果はあると思われる。